

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念に沿って、わかりやすく、より具体的な内容に文章化して、職員はもとより運営推進会議をとおして地域の方々の理解も深めているところです。	○	地域密着型サービスとして、地域のニーズに反映できるように、連携して理念の振り返りをしています。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的な取り組みとしては、ホームの理念を、指導の折に説明して理解を得、毎月開催している勉強会やカンファレンスでも話し合いを継続して、理念を共有して統一を図っています。	○	入職者へのオリエンテーションや指導方法の見直しをして、理念の共有が図れるよう、計画的に取り組みたいです。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には、来訪時や運営推進会議等でお伝えして、会議を欠席した方には、議事録にて理解していただいています。また地域の方々には、会合や講座等で理念を伝えて、定期的にホーム便りを配布しています。	○	地域住民の方から、まだ全面的に理解を得たとは思っていません。会合等で役割を繰り返して説明しているところです。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開設当初より、毎日のように散歩するのが日課で、日常的に顔なじみになっており、挨拶はもとより、庭先でお茶を頂いたり、犬と遊んだり、野菜や果物を頂いたりと交流しています。組の役割であるゴミ当番や回覧などやらせていただいています。	○	交流はありがたいほど出来ています。ホーム側から近所への奉仕として草取りやごみ拾いを手掛け始めたところです。継続していきながら、地域のニーズに応えるていけたらと思います。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初より、自治会のお祭り、地域の運動会や文化祭等に参加したり、地域の方々にボランティアで踊り・太鼓・ギターなど披露していただいています。また自治会に加入させてもらい、清掃などに参加して交流しています。	○	地域の学校や保育園には、毎回ホームの便りをお渡ししていますが、今後は子供たちと定期的に触れ合えるような機会を先生たちにお願しているところです。

事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	自治会と連携して、当ホームで毎月やっている認知症の勉強会にお誘いして、理解を深めてもらう取り組みを計画しています。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	自己評価表をもとに、更に具体的なケアの方向性が示されるよう、各ユニットで月間目標を話し合い、掲示して意識を高め、少しずつ成果が出ているところです。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	毎回運営推進会議のテーマを決めて、意見が出しやすいよう課題を出していくことにより、当初より意見交換ができるようになりましたので、更なるサービス向上につなげていけたらと思います。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	今年4月から認知症対応型デイサービスを開設したこともあり、運営や現場の実情を伝える機会が多くなりましたので、更に連携して、地域のニーズに応じていけたらと思います。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	地域で研修する機会があったら、職員に積極的に参加してもらい、制度の理解を深めているところです。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	改めて、勉強会のテーマを高齢者虐待防止について限局して学ぶ計画があります。

事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでに、ホームのケアに関する考え方や、取り組み内容をきちんと説明して、納得いただいています。契約時は起こりうるリスクや、家族のニーズをきちんと確認して、看取りに関する指針や、医療連携体制について説明して、同意を得ています。	○	契約時に丁寧に説明しても、理解が得られないこともあるので、日常的に不安に思っていることや、分からないことなどないか、いつもお聞きしていくよう働きかけているところです。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には出席してもらって、意見が出せる環境は作っています。日常的には、外食やドライブ等の外出希望も含めて、本人の意見を聞く環境作りを心がけています。	○	介護相談員の希望を、行政に依頼しているところですが、結論を頂いていない状況ですので、積極的に働きかけていきたいと思っています。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	開設当初より、毎月写真を添えたお手紙で近況報告をさせてもらいながら、預り金管理表を送っています。また自己・外部評価の結果や運営推進会議録で情報提供しています。家族が来訪時にはケース記録を見てもらっています。	○	今年の8月から医療連携体制加算を開始しましたので、健康状態についても記録で説明できるように心がけています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、全員の出席を募り、多くの参加をいただき、何でも言ってもらえるよう配慮しています。また来訪時には個別の対応ができますので、ゆっくりと話を聞く機会を設けております。	○	意見・苦情はカンファレンスで話し合い、解決策を見つけていきましたが、文章化していくことが少なかったため、意識的に取り組みたいと思います。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のカンファレンス時や毎月の勉強会で、出来る限り意見を聞いたり、発言する環境作りに努めています。また個別の面談はユニットリーダーが随時行い、職員の思いを聞き入れています。	○	今年の個別面談からOJTチェック表を用いて、困っていることや自信の持てないことなどを聞きだせるようにしていく用意をしています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者本人のニーズにあったケアが提供できるように、起床時から就寝時に至るまで、常に複数体制とし、夜間入浴も当初より実践しています。また管理者は、状況に応じた対応ができるように、シフトには入らず柔軟な体制を取っています。	○	更に朝晩の見直しを行おうと思っています。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係が出来ていますから、ユニット間の異動は考えていません。離職がやむを得ない場合、管理者が対応して、最善の努力をしています。	○	離職に関しては、認知症介護を継続する精神的負担の軽減が課題で、利用者の方にご迷惑をかけないようにするため、計画の立て直しをしているところです。

事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	働きながら積極的にトレーニング出来るよう導いており、事業所外の研修資料を閲覧出来るように工夫して、研修報告会を開催しているところです。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	現状では管理者のみの動きですが、リーダーも含めて、職員も積極的に交流出来るよう、手始めにリーダーが少しずつ事業所と交流しているところです。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	事業所内だけでなく、他のホームとの交流の場を定期的にもてるように他の事業所に働きかけていきたいと思えます。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○	個人面接の時に、職員の目標をきちんと確認して、向上心が持てるようこまめなアドバイスをしているところです。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	グループホームに家族がお連れしてくる前に、自宅に出向いて馴染みの関係を築き、思いを理解してニーズを引き出しているところです。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	家族の求めているものやこれまでの苦勞など、傾聴する環境が、他者の往来する落ち着いた場所にならないよう、十分配慮しているところです。

事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域の介護支援専門員を介しての相談ケースが多く、相談においてになる時は、かなり深刻なケースが多いのですが、認知症に関する理解も格差があり、状況に応じた必要な支援の提案なども、他の事業所と連携してつなげられるよう支援しています。	○	利用に限らず、認知症でお困りの方の相談に乗りながら、必要なサービスにつなげる橋渡しができたと思います。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむを得ずすぐに利用となった場合は、家族の協力を得て、来訪して頂いて、安心が得られるよう自室で関わりを持って頂いています。また利用前に自宅に出向いたり、ホームに来ていただいて短時間皆さんと団らんする時間をとったり、デイサービスへ来ていただいたりして、馴染めるように配慮しています。	○	家族とは、どのように導入していくか、いつも相談して連携していますが、本人と接する時間をもう少しとれるよう配慮していきたいと思います。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居前に、アセスメントをしっかりと、カンファレンス・暫定プランで意思統一を図るとともに、一緒に生活を共にする姿勢で、楽しく生活が送れるように、一人の人間として尊厳ある関わりをもって、共に喜怒哀楽を分かち合っています。	○	個別の関わりを持つよう心がけていますが、更に、共に生活している関係が深められるように、職員の感性を高めているところ。またカンファレンス時に、どのような関わりをしているか情報を共有しています。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	初回相談の時から、一緒に考え喜怒哀楽を共にしており、本人の様子を電話や手紙等でこまめに伝えることで、一緒に考え共に支え合う関係が日常的に多くなっています。	○	本人の代弁者になることもあり、家族とはいろいろな話をしていますが、更に対等な関係を築いていけるよう、きめ細かな情報交換をしているところ。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	相談の都度、状況を理解しつつ、本人の家族への思いを受け止めて、手紙で本人の言葉を伝えたり、本人に家族の話をしたり、行事へのお誘いをしたり、写真を入れた手紙などを毎月送付して、より良い関係が築けるように配慮しています。	○	行事のお誘いは、夏祭りに限定しますが、毎月の手紙に、次月の行事へのお誘いも記して、触れ合えるようにしていき、外出や外泊も限られた方にならないよう、働きかけていこうにしたいと思います。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家で生活していた時と変わらない生活が、限りなく出来るように、アセスメントで知り得た人間関係、行きつけの美容院、お墓参り、食事会等家族の協力をいただきながら、可能な限り継続しています。また友人、知人、親戚等訪問して頂けるよう働きかけていて、ホームで待ち合わせして外出することもあります。	○	家族の協力が得られている人に限られていることもあるため、ホームで可能なことを職員と話し合っ、ニーズに沿った個別な対応を前向きに検討しているところ。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が話し合い、仲間のことがわかるような団らんの場を、食事時、お茶時等、折にふれてフロアで職員も一緒に多くの会話をもつようにして、利用者同士が、支え合い仲良くなる調整役になって関係を見守りながら、気の合う者同士が過ごせるよう配慮しています。	○	何をしても孤立しがちな方(特に男性)には、職員が気の合う仲間として関わる人が多いのですが、一家の主としての世話役的な役割を発揮する環境を作り上げているところ。

事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている	サービ終了後も、地域包括支援センターや他の事業所と連携して、継続的に訪問をしたケースがあったり、遠方の方と手紙で交流しているケースがあります。	○	毎回発行している「笑がお」便りを、退居された利用者や家族の方にも渡ししながら、近況を聞いていく機会が持てたらと思います。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの関係が出来てくると、思いや希望を、日々の関わりの中で聞く機会が多くなるようになる為、それとなく確認したり、また家族とは、本人が希望する生活に近づいているか確認したりしています。	○	どのように暮し、何をしたいのか希望を実現する取り組みを進めています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、その人らしく生活してもらう手段として情報の大切さを伝え、知り得る情報を時間をかけて把握しています。	○	一度得た情報が活かされていないこともあり、自分らしく暮らせなくなっていないか、いつも評価する必要があることを、カンファレンスで確認しているところです。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活リズムを理解しながら、その方の出来ること、出来ないことを把握して、職員間で情報を共有し、本人の出来ること、わかることを全体像から把握しています。	○	職員全員がチームとして把握に努めることは難しく、格差もあるため、カンファレンス等で意思統一しているところです。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族とともに、暫定プランを作成して、希望や思いを確認すると同時に、アセスメントに沿って、きめ細かな見直しを、カンファレンスで意見交換しながら行い、具体的な内容としています。	○	時間の経過の中では、本人の思いや意見も聞けるのですが、初期の段階では、反映されないことが多くありますので、出来るだけ意見の聞ける環境を捻出したいと思います。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に2回、職員全員でカンファレンスを開いており、本人や家族のニーズ、サービス提供の内容にずれがないか確認して、きめの細かい見直しを行っています。	○	家族の来訪時、日常的な生活変化や、本人の思いなどよく話すのですが、プランについて、改めてお話や意見が少ない為、職員側が意識して問いかけていくことが必要かと思えます。

事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○	記録の時間があまりとれない現状があり、ホームの課題となっていて、記録内容の見直しをして工夫しているところです。また職員間で情報を共有できるように意識づけをしています。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	○	この12月で指定より3年を経過し、届出をすることで短期利用適応のホームにもなるためニーズを確認しながら検討を重ねております。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	○	定期的な訪問活動をしたり、キャラバンメイトの啓発講座等の取り組みもしながら、地域資源として協働してはいますが、自己満足に終わらないよう、一つ一つ丁寧に関わりを持っていきたいと思っております。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	○	ホームで使うサービスには限りがありますが、地域の行事には全て出させてもらっていますのでありがたく、継続していきたいと思っております。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○	地域包括支援センターとは、啓発講座も含めて協働することが多く、これからも前向きに取り組んでいきたいと思っております。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○	医療連携体制加算が始まり、重度化した場合の主治医について、現在家族と調整中で、家族とは話し合いを積み重ねながら、今後の対応を、前向きに検討中です。

事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域で認知症の医療に熱心な医師の協力が得られ、家族とも連携しながら、治療方針などの指示や助言をもらっています。その他にも、家庭医がない利用者には、専門医の受診を勧めています。	○	全員の利用者が、専門医に受診しているわけではないので、家族とも相談して働きかけていきたいと思っています。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の状態変化に応ずることが出来るよう、24時間連絡体制で可能な対応をしています。また週単位で、健康チェックや助言・指導を介護職員と連携して行っております。	○	看護師と提携医療機関とは、日頃お世話になっていて連携していますが、更に協力体制を密にしていきたいと思っています。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早い時期に、入院期間や治療方針を医師から確認して、家族と連携しながら、交代で職員がお見舞いに行き、不安の除去につとめると同時に、早期退院に向けて必要なケアの確認しながら、アセスメントとケアプランを作成して、家族と連携して退院支援をしています。	○	疾患の内容によっては長期化することもあり、身体レベルが低下した方が、ホームで他者と共同生活を送ることの困難さがあり、早期退院が不可能な方の対応については、家族と何度も話し合う必要があると痛切に感じております。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応に関わる指針で、ホームの考え方や、終末期のあり方を家族と話し合っており、終末期の看取りをして下さる医師を探して、ホームの趣旨を説明してご理解を得たり、家族に主治医の意向を確認してもらったり、重度化に向け話し合いと方針の統一を図っています。	○	重度化する前に、家族とは話し合いをしています。家族の思いは様々で、何度となく、話し合いを繰り返す必要があり、継続しています。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りの事例があり、家族の思いや医師との連携、職員の力量など多くを学び、教訓としたことを大切にして、勉強会などを開催しています。	○	ケースバイケースで、重度化の解釈も家族によっていろいろです。疾患を抱えながら、終末期を迎えるのには、家族との信頼関係が不可欠で、責任が持てる取り組みの検討や準備は継続しています。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	開設以来、3名が別の居所に移り住んでいますが、ケアプランや支援状況を書面で渡すとともに、移行先に、事前に本人と何回か訪問して馴染みの関係となったり、転居後も、職員が訪問したりして、情報交換をしています。また在宅復帰された方も4名いて、介護支援専門員と連携して、必要に応じて訪問等しております。	○	長期の入院を余儀なくされ、状態の変化でホームに戻れない方は、病院には看護サマリーを渡せますが、その後の居所については、継続して連携したいのですが、情報交換する機会がないのが現状ですので、配慮していきたいと思っています。



事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「プライバシー」「尊厳」については、勉強会やカンファレンスの席で意思統一して、意識の向上を図っているところ。個人情報の取り扱いについては、入職時や、その都度、具体的に確認し合っています。	○ 他の家族や外来者等が訪問された時、突然のこともあり、プライバシー確保が甘く感じて反省するところ。みなさんに確認するゆとりを持てるよう、カンファレンス時にあらためて考えてもらうよう働きかけています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○ 利用者とは、入居と同時にコミュニケーションをしっかりと取り、何ができて何が出来ないか、何をしたいのか、生活習慣やリズム等、書面上で知り得なかった情報や思いを聞いて、個別にあった声かけをして、希望を言える環境づくりに努めております。	○ 職員側で決めているわけではなくても、生活のリズムが出てくると、利用者同士で合わせていく場面も多く、改めて考える必要があると感じていますので、カンファレンスで関わりの見直しをしていこうと思います。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○ 朝寝坊をする方、朝早くにお祈りをする方、夜遅くまで職員とお話をする方、買い物の希望がある方、散歩に行く方、夜遅くにお風呂に入る方等、可能な限り個別の希望にそって支援しています。	○ 日常的に一人一人に希望を聞いているかと言うと、職員にも格差があり困難です。その方のペースが決まっていると、それに安どすることも多いので、今後はプランに個別の内容を更に具体的にしていこうと思います。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○ ご自分で身だしなみを整える方が多く、化粧も丁寧にし紅の色も楽しみながら選んでいます。自己決定しにくい方は家族に本人が好んで身につけていたものをご用意いただいて、本人と一緒に選んでいます。美容院などは、家族が外出の際お連れする方もいますが、多くの方は移動美容院でパーマや毛染めをご自分で希望を述べてしております。	○ 入居当初は行きつけの理・美容院に行く方がいましたが、年数と共にご本人の直ぐ来てもらえる便利さや、気に入っている状況もあって甘んじていましたが、改めて見直す機会にしたいと思います。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○ 毎週旬の食べ物を取り入れたメニューを、利用者の希望を聞きながら作成して、一緒に食材の買い物、畑から野菜を収穫し、一緒に調理をしたり、盛り付けをしたりしながら、職員も3食とも同じ物を食べるようにしています。またお米そぎ、ぬか漬け、後片付けなどは役割が決まっています、職員が教えてもらっています。	○ 外食、お楽しみ食、手作りおやつ、行事食、お誕生日の祝い膳等今までの取り組みを評価して、更に郷土料理など、懐かしい手作り料理などが再現出来たらと、個別に利用者から聞き出しているところ。○
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○ 眠る前に晩酌をする方もいましたし、たばこを決められた場所で、職員管理のもと、吸われる方もいました。飲み物は毎回個別に希望を聞いて様々な飲み物を楽しんでいます。またお茶菓子をご自分の好きな物を買に行ったりして、個別に楽しんでいます。	○ 嗜好については、詳細の情報が分からないケースもあり難しい面もありますが、馴染みの関係が出てくると、いろいろ話してくれますので丁寧に取り組んでいるところ。利用者が遠慮してしまうことがないよう職員が働きかけているところ。○

事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツを使用している人はいません。排尿パターンを知って、病院でオムツをされていた方も、時間でトイレ誘導することで、自尿があり、オムツを外すことがよくあります。昼夜とおして、排泄の支援をしていますが、寝てしまわれると、尿意を訴えなくなった方が増えています。	○	夜間に、トイレ誘導することで、不眠が重なり、リズムが崩れることもあり、リハビリパンツを使用して寝てもらおう試みをしているところですが、職員間でも試行錯誤しています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日々、入浴の希望を聞きながらですので、予定表はなく、入りたい時に夜間入浴を皆さんしています。時には仲の良い方同士で誘いあったり、寝る前に入る方もいますので、職員体制も夜は複数体制です。	○	お声をかけると、皆さん入浴が好きで入るのですが、負担ではないかと、人によっては少し間隔をあける工夫もしているところではあります。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	アセスメントに基づき、個別の生活習慣を把握したうえで、入居後の生活リズムづくりを心掛け、外出等疲労度によって、休息を個別に取り入れています。また寝付けない方には、一緒に添い寝したり、お茶を飲みながらお話をしたりと、個別に配慮しています。	○	個別に疲れ具合が違う為、散歩も状況で距離を加減したり、買い物も「行きたい」思いと疲れは違うので、判断することが難しい点がありますが、8月より看護師の介入もあり、何でも相談しているところではあります。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、出来る役割を個々に発揮しており、掃除、洗濯、庭掃除等生活歴を参考に、入居後のコミュニケーションで引き出されることも多いです。食事作りやぬか漬け、干し柿作り、おはぎ作り、すし巻き、茶菓子作り等皆さんの知恵を発揮して手作りの楽しみ事もあり、また行事や外出、外食、買い物等も希望にそっています。	○	日常生活動作の低下した方は、行動にも限りが出てきてしまい、役割が出せないことがカンファレンスの課題にもなっていますが、持てる力を発揮できるよう個別に関わりを持って取り組んでいるところではあります。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持っていて買い物される方も何人かおられますが、大半の方は事業所で管理し、外出の際は持っていく、自分でお金を払っていただけるよう配慮しています。金銭管理の難しい方も、財布がないことの不安がありますので、家族と相談しながら、小銭をお持ちになって財布にいれて頂いております。	○	家族の理解が得られた方に限らず、みなさんが個々に財布を持てるように、もっと積極的に取り組んで、金銭管理の支援をしていこうと思います。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨でない限り、歩行困難な方も日常的に散歩、買い物、ドライブ、外食等に出かけたり、ご自宅に立ち寄り、友達と外出したり、お祭りなど地域の行事に出かけて行ったりと可能な限り支援しています。	○	利用者が重度化してきて、外出にも創意工夫が必要となっていて、家族の力を借りることも出てきていますが、「家の中に閉じ込めない」理念に沿って可能な限り取り組んでいるところではあります。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の個別の外出については、ご家族と時間をかけて計画して温泉旅行や親戚の集まりや、故郷へ行くこともありますが、職員間では、個別に神社、お寺、温泉等身近な希望には少ない集団で出かけております。	○	普段行けないところについては、職員間で連れていきたい思いもあり、勤務体制を調整して、計画的に取り組むたいと思います。

事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って、電話をかけられる環境にはありますが、職員が積極的に働きかけることはありません。また個別に、はがきや手紙を出したり頂いている方はいますが、みなさんに働きかけてはいないです。	○	家族や友人のご理解と協力も必要で、職員の働きかけによって、より多くの方が、やり取りできる環境になると思いますので、カンファレンス等で前向きに働きかけたいと思います。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族がいつでも来られるように、面会時間の定めはなく、ゆっくりくつろげるように、自室で過ごしてもらったり、お茶やイスのさりげない配慮をしたり、会話が進まない時は間を取り持ったりしています。	○	食事や入浴宿泊の希望は今までなかったのですが、更にコミュニケーションをしっかりとって、ニーズを確認したいと思います。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する学習会や、毎回のカンファレンスでも、職員間で共通認識のもと、ケアの振り返りをしています。	○	マニュアルは共通認識していますが、ホーム外研修は、限られた職員だけでしたので、機会があれば参加していく予定です。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、冷暖房が入っていない限り、玄関ドアは開放されています。また職員間でも連携プレーが出来ていて、見守りが出来る体制となっています。	○	利用者の方が外に出て、一緒についていくことはよくあり、「ひやり、はっと」報告もありますので、離設マニュアルに沿って対応はしていますが、更に意識を深めて、職員間で共有したいと思います。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、役割に沿って見守りの出来る環境があり、全ての業務は利用者の方と同じ空間です。また夜勤では、こまめに様子を確認したり、起きてくる方にも見守り優先で関わっています。	○	日中の安全確認は玄関ドアが開放されている分ややもすると、職員が神経質なくらい気を張っていますので、緊張感を持ちつつもゆとりがある体制作りや役割の見直しをしているところです。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況変化に応じて、カンファレンスで情報を共有して、検討を積み重ねていて、必要に応じて必要な物品を厳重に保管するよう、職員間で徹底しています。いまは「ひやり・はっと」の報告例はありません。	○	倉庫の利用をしていますが、更に見直して区分していけるよう取り組みたいと思います。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のための学習会を定期的に行ったり、「ひやり・はっと」の内容については、カンファレンスで話し合って今後の予防対策について検討し、ケアプランにいかしたり、家族に説明して、一緒に対応を考えることもあります。	○	予測もつかない「ひやり・はっと」報告もあり、いつもリスクと向き合っていますが、更にチームワークをしっかりとっていけるよう、学習を積み重ねていく予定です。

事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護職員がいることもあって、定期的に学習会を開いたり、日常的に必要なに応じて指導する機会には恵まれています。また救急時に対応するマニュアルを整備して周知徹底を図っています。	○	消防署の協力を得て救急手当や蘇生法の学習会を開催していく予定で、学習委員と話し合っています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て初期消火、通報、避難誘導等、利用者の方と一緒に昼夜を想定して訓練を実施しております。また大雨の時などは自治会長さんをはじめ、地域の方々の見回りもして頂いて心配頂いております。	○	地域の消防団の連携が弱い為、地域の避難場所や災害時の連絡網等密接に連携したいと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時より、ホームの理念を説明して、抑制感のない自由な環境であることのご理解を得て、その為のリスクも説明し、入居後は、症状の軽減が図れたことのメリットをお話し、ご家族に見て頂きながら、その都度対応策を話し合っています。	○	何度か「ひやり・はっと」報告がある方に関しては、プランの見直しをしているのですが、アセスメントをしっかりとっていくため、センター方式の検討をしていくところです。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化は、日頃の状況が把握できている職員ですので、こまかなことについても、看護師や管理者に報告して指示を仰ぎ、職員間で共有して対応しています。	○	医療連携体制が整ったことにより、気軽に相談できる環境がある為、更に健康管理に留意しているところです。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は、個別の医療用カルテに、全てファイルしていつでも分かるように申し送り、医療受診状況の記載をして、どんな状況かが把握できる仕組みがあり、必要に応じて日常の記録を医療者に情報提供して、症状をお伝えしています。	○	定期受診以外で内服の変更後の変化については記録に残っていますが、受診が必要な方の場合には、家族と連携して早期に受診につなげているところです。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維素の多い食材や乳製品を取り入れたり、適度な運動や水分等一人一人の状況に合わせて調整していますが、長年便秘傾向で下剤を服用していた方は、入居後徐々に下剤を加減して、自然排便できるように試みしています。	○	個別に食材を変える難しさはあり、全体にバランス良くしていますが、便秘傾向の方には更に工夫が必要で、個別に乳製品や果物等取り入れる取り組みを始めたところです。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人の、習慣や意向を大事にしながら声かけを行い、力量に応じて介助、見守りをしており、就寝前は義歯の洗浄を行っています。また毎週、歯科医師の往診をして頂いていますので、口腔ケアについて相談することもあります。	○	毎食後にすることが習慣にない方は、導きが難しいのですが、一人でも多くの方が保持できるよう働きかけているところです。

事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日をとおして、食事量や水分量が取れているか、職員間で引き継ぎ、必要に応じて摂取状況を毎日チェック表に記載しています。食事量が少ない方やむせのある方等、個別には医療、家族と連携して、嗜好を考慮しながら、栄養バランスの確保をしています。	○	行政と相談して、保健師、栄養士等の専門的なアドバイスをいただけるよう取り組む予定です。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する学習会を全職員で行い、予防策について周知して取り決めに沿って、日常的に留意していますが、繰り返しの学習不足があります。	○	わかりやすいマニュアルやフローチャートを作成して、身近に目に触れられるように、提示していく予定です。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理や点検は、週に一回は必ず行い、古いものを残さないようになっていて、掃除や調理用具の衛生管理は役割として取り決めがあります。	○	食材管理について保健所の指導を受けて、検証していく予定です。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	階段周りに、花壇やプランターなどを置いたり、玄関に花を生けたり置き物に工夫をしたり、狭いながらも利用者と一緒に手作りして、もてなしの心で工夫しています。	○	季節の花が上手に育つ時と失敗する時とあり、利用者ががっかりすることもある為、土づくりに知恵を絞っています。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い勝手のいいように、身体機能のレベルも配慮しながら、何度か見直しをしていきながら、限られた空間ですが、心地よい音楽をかけたり、台所の匂いや、食器を洗う音等利用者と一緒に手作りして居心地良くなる工夫をしています。	○	カンファレンスで、自分が生活したとしたらどうか職員間でいつも問いかけながら、空間づくりをしていましたが、常に振り返りをしているところです。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の提供ですが玄関先や事務所、踊り場にささやかですが、空間を設けて居場所の工夫をしています。	○	環境作りでは家具類の不足を感じていますので、居場所づくりについても、検討していく予定です。

事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より馴染みの家具や、使いなれたものを確認しながら、居心地の良い空間になるような環境づくりを家族と話し合っ、時間をかけてご準備頂けるようにしていますが、家庭の事情によっては、限りのある準備しかできない方もいます。出来るだけ馴染みの小物をご準備頂いています。	○	ご家族に思い出の品物や、使い慣れたものを入居後も引き続きお願いして居心地良くするための関わりを継続しています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房に頼ることなく、外気に限りなく近い環境を心掛け、職員がこまめに換気をしていて、毎日の外出で体を鍛えることをモットーにしており、自然により近い環境とし、利用者の状況を把握しながら配慮しています。	○	衣類や布団など、季節の入れ替えをしているのですが、狭い居室では限りがあり、換気や空気のだよみがないよう家族の協力をお願いしているところです。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体レベルに応じて対応できるよう、手すりの設置や、家具の配置、居室の使い勝手等見直し改善しています。	○	車いすや歩行器などの自助具が多くなっていますので、さらに安全への配慮をしていく予定です。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お部屋の入り口や、トイレ、お風呂場等、本人にとって何がわかりやすいか、職員で話し合っ、馴染みやすいものを取り入れて工夫しています。	○	表札やのれん、植物等だけでなく、家具などを検討していくための、意見を求めていく予定です。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは、個別に布団や洗濯物を干す人もいたり、干し柿をつるしたりと様々な用途があります。狭い庭も四季にあわせて、お花作りをしたり、水撒きをしたり、草をとったりして楽しんでいます。畑では野菜の収穫もできて、役割が増えています。	○	畑は今年の春からの取り組みですので、少しずつですが楽しみが増すように試行錯誤しているところです。

事業所名: グループホーム「笑がお」 2F

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設時より、安心して暮らして頂くための環境作りに配慮して、認知症の方に添ってまいりました。個別性を大事にしつつ、可能な限りの能力が発揮できるよう役割を引き出しています。その取り組みの一つが、「家に閉じ込めない」ことで、五感で得た感性の積み重ねが、日々の穏やかさにつながり、役割も増えて満足感につながっています。毎日の散歩、個別の買い物、外食、地域の行事、ドライブ、畑仕事、園芸等四季を通じて楽しみを見つけています。次に「コミュニケーション」で、職員間で毎月勉強会を開催していますが、認知症の理解を習得しながら、関わることの意味を理解して、個人史を知りながら、日々コミュニケーションをとっています。当初座って話ばかりしていることに、職員もうしろめたい思いもあったようですが、それが大事な仕事であると働きかけることで、日々信頼関係が構築され、馴染みの関係を深くしています。共に泣いたり笑ったりと家族以上の関係がもたらされる事もあります。入居者が入院をした時など、順番で食事介助などの介護を自主的に職員間でして、病院関係者から大勢の家族と勘違いされたほどでした。次に「地域とのかかわり」ですが、当初より自治会関係者と連携して取り組んで地域の行事にはいつも声をかけて下さり、近所の方にもよくしていただいています。現在は運営推進会議も含めて、認知症啓発講座や地域ボランティアの会への入会等、積極的な行動をとることで、地域の方たちと少しずつですが信頼関係を築いております。